

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立堂宏別館)TEL(03)502-21
日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立堂宏別館)TEL(03)503-21

明治高等学校同窓会
会則(改正案)

第一章 総則

第一条(名称) この同窓会は、明治高等学校同窓会と称する。

第二条(目的)

この同窓会は、母校の教育を受けた同窓生の知的および精神的連帯のもとに、会員相互の結束と親睦を図るとともに、母校の伝統と名声を維持し、かつ母校の教育事業の発展のためにこれを賛助することを目的とする。

第三条(事業)

- 一 この同窓会は、前条の目的を達成するための事業として、次のことを行う。
- 二 会費の徴収と、刊行すること。
- 三 会報その他の広報物を発行すること。
- 四 同窓会の開催を奨励すること。
- 五 この同窓会と母校との間における協力関係を維持し、促進すること。
- 六 母校に対する賛助活動を推進すること。
- 七 その他この同窓会の目的を達成するために必要なこと。

第四条(事務局の所在地)

この同窓会の事務局は、明治高等学校内に置く。

第二章 会員

第五条(会費資格)

この同窓会は、次に掲げる者を会員とする。

- 一 明治大学付属明治高等学校を卒業した者
- 二 旧制の明治中学校を卒業した者およびこの中学校の第四学年の過程を修了した者
- 三 前各号に定める者のほか、かつて母校に学籍を有した者で同窓会の推せんにより理事会の承認を得た者

第六条(入会金)

会員は、入会金を納入するものとする。

第七条(年会費)

会員は、年会費を納入するものとする。年会費の額およびその徴収の方法は、総会で定める。

第八条(特別会員)

母校の教職員である者およびその職にあった者を特別会員とする。

この同窓会に、同窓会ごとに一人以上五人以内の代表幹事を置く。

第三章 総会

第九条(総会の開催)

総会は、毎年五月に開催する。ただし、二月を超えない期間に限り、会日を延長することができる。

この総会は、会員の懇親を目的とする。会員大会とあわせて行うものとする。

この総会には、必要のあるときは、臨時に総会を開催することができる。

総会は、会長がこれを招集する。

総会を招集するには、会日より二週間前に会員に対して通知をしなければならない。ただし、代表幹事の一人に対して発した通知は、その代表幹事の属する同窓会のすべての会員になされたものとみなす。

第十条(総会の決議)

総会は、この会則に定める事項およびその他の重要な事項を議決する。

総会の議長は、会長または会長によって指名された者がこれにあたる。

第四章 役員

第十一条(役員の種類および数)

この同窓会に理事三(三)人以上および監事二人以上を置く。

理事および監事は、総会で会員のうちからこれを選任する。

理事および監事の任期は、一年とする。この同窓会を代表する理事および会務を分掌する理事は、理事会の決議をもってこれを定める。

第十二条(理事)

この同窓会の会務の執行は、理事会がこれを決する。

理事会は、会長がこれを招集する。

理事会の議長は、会長またはその理事のうちにこれを推挙する。

理事は、理事または委員もしくは代表幹事を兼ねることができる。

第十三条(監事)

この同窓会の会務の執行は、監事会がこれを決する。

監事会は、会長がこれを招集する。

監事会の議長は、会長またはその理事のうちにこれを推挙する。

監事は、理事または委員もしくは代表幹事を兼ねることができる。

第十四条(委員)

この同窓会には、第一案の目的の達成および第三案の規定に掲げる事業の遂行のために必要な事項を調査し、研究し、審議し、または実施する機関として委員会を設けることができる。

第十五条(委員会)

委員会は、委員長一人および委員二人以上をもって構成する。

委員長は理事のうちにから理事会の決議により会長がこれを委嘱し、委員は会員のうちにから会長の同意を得て委員長がこれを委嘱する。

第十六条(代表幹事)

代表幹事は、この同窓会に備える代表幹事名簿にこれを登録する。

この同窓会に、同窓会ごとに一人以上五人以内の代表幹事を置く。

代表幹事は、この同窓会に備える代表幹事名簿にこれを登録する。

同窓会は、代表幹事となるべき者を同窓会の会員のうちにから選任して登録の請求をしなければならない。

同窓会は、代表幹事を更迭しようとするときは、登録取消の請求をしなければならない。

代表幹事に欠員がある場合に、その属する同窓会により代表幹事となるべき者を選任できない事情があるときは、会長は補充の代表幹事を指名して登録の請求にかえることができる。

代表幹事は、この同窓会の会務の円滑な執行をはかるために、その属する同窓会およびその会員に対する会務の具体的な執行として会長が委任する事務をつかさどる。

代表幹事は、前項の諮問のために代表幹事の決議を求めることができる。

代表幹事の決議は、全部の同窓会または一部の同窓会についてすることができる。

代表幹事の決議の議長は、これに加わる代表幹事のうちにから会長が指名した者がこれにあたる。

議長は、評議の経過および結果を会長に報告する。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

この評議において表決するとき、同窓会ごとに一個の表決権を行使するものとし、代表幹事の意思が統一できないため一個の表決権を行使できないときは、その表決を棄権したものとみなす。

kp

大正十年第五回卒業
共同印刷株式会社

片岡 龍夫

文京区小石川四一四四二
電話(八三三)二二二(大代表)

昭和十八年卒業
(株) 大作厨房

代表者 大作 一郎

杉並区久我山五一八十三
電話(三三四)四四四一(代表)

昭和二十年卒業
中西瀝青株式会社

専務 野玉 善雄

中央区八重洲一四二
電話(二七二)三四七(代)

昭和十七年卒業
日本製版(株)

取締役 卜部 芳郎

新宿区市ヶ谷河田町七フジテレビ内
電話(三三三)一一一一(代)

昭和十七年卒業
三立電機株式会社

取締役 三上 外喜男

板橋区成増一三〇一十三
電話(九三〇)二〇一(代)

昭和二十二年卒業
吉徳の人形

小林 昭雄

台東区浅草橋一四九一十四
電話(八六三)四四一四

昭和七年卒業
日本農業資材株式会社

取締役 真下 盛二

千代田区内神田三三二一十一
電話(二五二)五三〇一

第十六回卒業
石龜運輸梱包株式会社

代表 河野 章一

江東区木場二一三一一
電話(六四二)五六二一

第十六回卒業
株式会社高砂保険事務所

代表 小川 武時

港区芝浦三三六一一〇
電話(四五五)七五三一

昭和十二年卒業
(株) 三幸社

奈良 八郎

文京区千石四二二六六十一
電話(九四二)四七七三

昭和九年卒業
日本放送協会々々

坂本 朝一

千代田区神田美土代町七YMCA内
電話(二九二)七二四一

昭和十九年卒業
東京YMCAレストラン

中 富 頌隆

千代田区神田美土代町七YMCA内
電話(二九二)七二四一

第12回総会報告

新旧交代の時期？

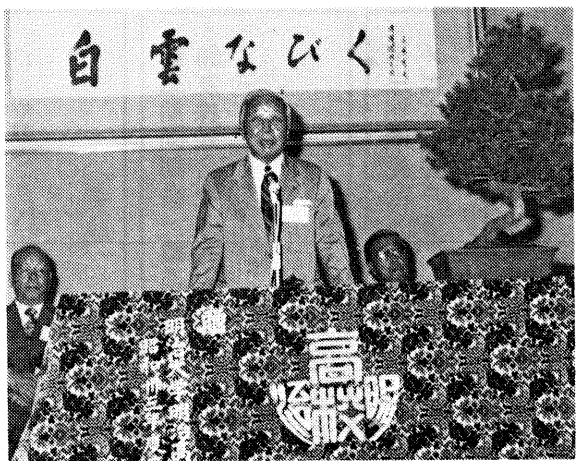
第十二回総会は、昨年同様に、母校の御好意によりまして、母校講堂において、六月十二日午後三時より、恩師、学校関係者多数の来賓をお迎えし、同窓会員多数の出席を得て、盛大に開催されました。総会は、御案内の通りの議事を形通り役員改選（全員重任に）更に同窓会充実のために若手役員の増員、事業及び決算の報告を行ない、これを可決して、すぐににぎやかな懇親会に入りました。会場の各々のテーブルには、恩師を囲んでの記念写真や、同級、先輩、後輩が思い思いに盃をかわけ、食事を取りながら、仕事趣味など互の近況を知らせたり出席できなかった友の消息を聞くなど、時の過ぎ去るのも気も風にな、談笑に話の華を咲かせる光景は、いつもながら同窓会ならではの感で、本当に有意義な日であったと思ひ、同窓会開催御尽力下された方々に厚く御礼上げる次第です。

本年の同窓会開催に当っては特に昭和二十八年卒君塚君を中心とした、昭和三十年前後卒業の



第12回総会会場（於・本校講堂） 写・高橋秀明氏（昭和12年卒）

手の々に大変にお骨折をいたたきました。会長さんをはじめ、同窓会中樞の先輩方々の御指導を仰ぎつつ、その企画・運営の実働を戦後の若い方々にゆだねられた今回を契機として、今後その方向を取られ、序々に同窓会の運営も若い世代に引きつがれて行く姿が見られたことは、同窓会のより発展のために、大変良い傾向と存じます。仕事等公私多忙な世代で大変ですが、若い方々の一層の御協力、御活躍をお願いする次第です。本年の総会が、昨年比べて出席者数が少し減少したのが少し残念でした。同窓会員、一人でも多く参加され、共に集い話らうことが同窓会の発展につながるものと思います。一生懸命御尽力下される方々の芳に報いるためにも、次の機会には、ぜひ旧友をおさそ



栗原副会長 写・高橋秀明氏（昭和12年卒）

戦火を生きのびた友

昭和十二年卒 二二
高梨好雄

昭和十二年卒の私たちは二会 敗戦、廃墟と化した故国は、A
と言う組会をもっていた。二十一 B、C 級約一五〇名の同期生を輩
回目の卒業に因んで命会したもの り散りにし、その消息は跡絶え、
である。私たちはこの平凡な名前 誰が戦争の犠牲者になったのかき
の二一会をこのよなく愛したが、 えわからなくなった。このころ二
大東亜戦争の勃発とともに、卒業 一會が聞かれるなど誰が想像でき
期を繰り上げられ昭和十六年十二 たろう。
月以降逐次戦線にはさまかれ、二 しかし、奇特な友が一人いた。
一會も同じ運命を辿った。そして 彼は仲間 の些細な情報をかき集

ては足當つていった。その結とはなかつたらう。二二回生は母五人で恩師を開いて二二会を開校の名簿から抹殺されていたとした。出席者が一〇人となり二二かもしれないのである。

人となった。そして、今では二二二二会が戦禍の洗礼を受けながら護士)

教諭。三十九年教頭。四十二年高校・中学校長。(昭和五十一年十月三十一日付)

伊藤好一先生 大正五年十二月二十八日生。昭和十九年立正大高

明高中の民主化について

中学教頭 矢口 清

新年度の出発にあたって、明高中運営の基本方針と見解をのべ、同窓会の皆さんに御理解と御協力を御願ひしたいと存じます。

昨年十月二十九日、私たちは大教職員と明高中の教育の諸問題についてのシンポジウムを開催し、附属教育のあり方をめぐって真剣な討論を行いました。その結果、私たち明治高校、中学が明治大学の附属校として一貫教育の実をあげるため、校内諸制度の民主化と民主教育の推進の必要性を痛感し、今明治大学に明高中の民主化を宣言し、ガラス張りの学校運営を大学との間に約束しました。

明治大学はすでに昭和三十年に民主的改革を断行し、真に教育、研究の府として社会的名声を高めていることは周知の事実であります。しかし中高はこの改革からとのごされ、私たちも世にいう有名大学の附属校としての地位に甘んじ、今日まで教育の面で必ずしも見るべき成果をあげえなかったことも深く反省せざるをえません。昨年来本校の運営に關し、私学などのから多少不合理的点があつて

もむをえないのではないかと。御意見が一部の卒業生やPTAの方々からなされました。しかしAの方々からなされました。大学全体が教育研究体制の民主化をおすすめているときに、附属校がこれと逆行する如き態度を示すことは全く許されません。附属校としての地位を放棄するなら、ともかく、大学の一貫教育を通して、全員推せん入学をたてまゝとし、本校の教育が、大学と離れて存在しないことは十分御理解願ひたいと存じます。高中の教育水準を高め、完全な大学推せん制

母校短信

春の叙勲

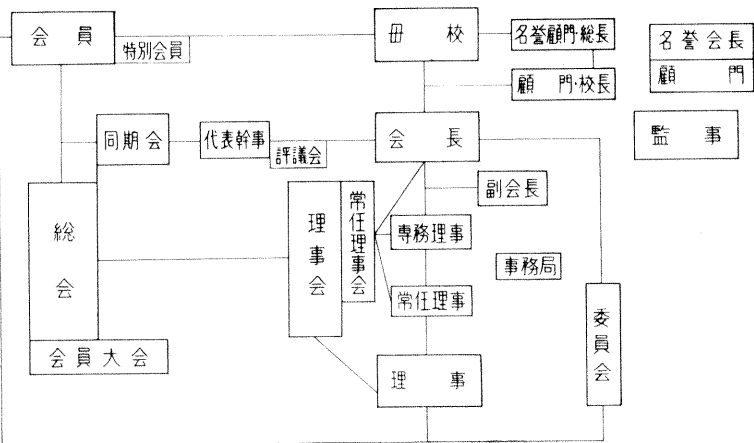
天皇誕生日の四月二十九日、春の生存者叙勲が発表になった。

明治中学第一回卒業の井口長次氏（作家山手樹一郎）と第七回卒業の田嶋孝寛氏（三井生命社長）の両

新任教職員

《高樞教諭 藤田昭造先生（昭和四十七年明太文学部卒、四十九年同大学院修士過程修。二十八才、社会科）、近江吉明先生（昭和四十七年專修太文学部卒、四十九年立教太大学院修士過程修。二十七才、社会科）

明治高等学校同窓会組織図（新会則による）



定年退職者

福島則雄先生 大正二年八月十日 旧明治中学教諭を経て、二十三年明治高等学校・中学校教諭。四十九日 旧明治中学教諭を経て、昭元年教頭。（昭和五十二年三月三十日付）

明窓会（昭和二十八年卒）事務局長

(株) 振天堂トケイ店
専務 取締役 戸田 一郎
千代田区神田小川町三十一〇
電話(二九二)四五五四

明窓会（昭和二十八年卒）代表幹事
熊木會計事務所

公認
会計士 熊木 貞夫
文京区湯島二一九一〇湯島ビル六階
電話(八二六)〇六九一

第三期同期会猿楽会

(株)寺村梱包
 社長 寺村 集
 専務 寺村 武
 文京区本郷二丁目十九番十一
 電話(八三)六六八六代

昭和十二年卒・二一会
寿化学工業株式会社

取締役
社長

高橋 秀明
(旧 清二郎)

品川区南品川 二一四
電話(四九三) 一一六六

昭和十二年卒業・二一会
木内商店（ジュニア・アクセ

木内正雄

昭和十二年卒・二一会
品川区区議会議長

大屋正信

昭和八年卒・昭八会
大文産業株式会社

取締役社長
高木正夫
渋谷区富ヶ谷一―五三―二
代々木ハイランドビル三〇二
電話(四六七)五四五一(代)

昭和五年卒業
(株)三栄社

代表取締役 増田 正之
本社・工場 板橋区板橋四一四十七
電話 (九六二) 七八八八(代)

明窓会（昭和二八年卒）副幹事

（株）ケーエス商会
代表取締役 椎名 明
江東区北砂一―十一―五
電話（六四五）九五四―一

明窓会（昭和二十八年卒）副幹事
君塚美明法律事務所

弁護士 君塚美明
港区西新橋三十五番地
電話(四三七)五七七三

